

## ベケット研究会第48回例会 発表要旨

2017年7月8日  
東京工業大学

木内久美子 位置関係・運動・性差：「馬乗りアリストテレス」から『幸せな日々』を読む  
この発表では、「馬乗りアリストテレス」という西洋美術における一主題を出発点として、『幸せな日々』の登場人物ウィニーと彼女を取り囲む世界との関係を、人物関係と舞台美術という二つの観点から読み解く。具体的には（１）「馬乗りアリストテレス」をベケット作品の読解に援用することの正当性を、文献学的視点と間テクニクの視点から述べる。そのうえで、「馬乗りアリストテレス」について説明する。（２）『幸せな日々』との対比のために、「フィンガル」を読み解き、地形と位置関係、運動、第三者というモチーフを分析の軸として抽出する。（３）（２）のモチーフを軸に（１）を踏まえて、ウィニーと世界との関係を読み解く。またこれを踏まえて、『幸せな日々』における性差の問題についても再考する。

対馬美千子 ベケットにおける想像力の可能性をめぐって  
想像力は感覚にとって不在であるものを現前させる精神の働きであり、「世界が感覚に対して現前しているという状態」（アーレント）からの退却にもとづく。しかしこの退却は歴史的現実からの逃避を意味するのではない。私たちが現実に行う行為とは異なるしかたで、想像力は歴史的現実に応答する可能性をもつ。本発表では、『ゴドーを待ちながら』、『死せる想像力よ想像せよ』を含む中期の短編散文作品を読むことを通して、ベケット作品における想像力の可能性について考える。

## 藤原曜 転移する言葉 —— 「…雲のように…」における朗唱の問題

「彼女のことを考えるときはいつも夜だった」。この一節で始まるテレビ作品…*but the clouds*… (1977) は、「彼女」のイメージの召喚を主題とする作品として、これまで論じられてきた。とはいえ、このイメージの召喚において、「彼女」の唇がイエイツの詩句を沈黙のうちに口ずさみ、また語り手がその詩句を実際に発話することに注目するなら、この作品が「朗唱」を中心に構成されていることが明らかになる。本発表では英語版テキスト、並びにベケット自身の演出による南ドイツ放送版を参考に、この「朗唱」の問題について検討したい。